

【琵琶湖・内湖の自然が育んだ歴史文化】

琵琶湖・内湖とともに生きる文化と景観

1) 概要

市域では、縄文時代には、琵琶湖及び内湖周辺に広がる平野に集落が発生し、豊かな水と土の恵みを活かした人々の営みが行われてきました。弥生時代には既に水稻耕作がはじまり、**大中の湖南遺跡**をはじめとした、内湖周辺に広がる肥沃な土壌の水田化など琵琶湖畔周辺の開発が進められ、中期後半には内陸部に入った台地上に集落が形成されるようになりました。

古墳時代に入ると、**古代豪族**による支配のもと**雪野山古墳**、**瓢箪山古墳**などの古墳が築かれました。古代には、高度な技術をもった**渡来人**による湖東地域一帯の内陸開発が進められ、**蒲生郡**の条里と荘園が発達することとなります。

鎌倉時代末期には、近江各所で**惣荘**あるいは**惣村**と呼ばれる村々が発達し、自治的組織・運営が行われました。北津田に伝わる**大島**、**奥津島神社文書**（奥嶋百姓等隠規文^{おくしまひやくしやうとうおきぐみ}）は、日本で最も古い惣掟として知られ、琵琶湖や内湖との関わりの中で育まれた**惣村文化**を今に伝える貴重な歴史文化資産です。

中世から近世にかけて、湖上関や**八幡堀**に代表される水運の発達や、八幡商人による新田開発など、様々な形で恩恵を与えてきた市域の内湖は、戦前から戦後にかけて食糧増産を目的とした**干拓事業**のもと大きく姿を変えていくなか、往時の姿が今も残る**西の湖**は琵琶湖最大の内湖として琵琶湖とともにラムサール条約湿地として登録され、また、「**近江八幡の水郷**」として重要文化的景観選定の第1号となるなど、その保全が図られています。

琵琶湖最大の島であり、日本の淡水湖の中で唯一人々が生活する**沖島**とともに、ヨシ原が広がる琵琶湖畔や西の湖周辺は、往時の**水辺の暮らし**を偲ぶ琵琶湖の原風景ともいえるべきものであり、現在の景観に受け継がれています。

2) 構成歴史文化資産

	種別	名称	類型
1	記念物	大中の湖南遺跡	国指定文化財
2	記念物	弁天島遺跡	未指定
3	記念物	雪野山古墳	国指定文化財
4	記念物	瓢箪山古墳	国指定文化財
5	記念物	千僧供古墳群	県指定文化財
6	記念物	西車塚古墳	未指定
7	記念物	東車塚古墳	未指定
8	記念物	常楽寺山古墳群	未指定
9	記念物	御館前遺跡（推定蒲生郡衙）	未指定
10	有形文化財	短甲、刀剣	市指定文化財
11	文化的景観	近江八幡の水郷	国選定文化財
12	文化的景観	琵琶湖及び沖島	未指定
13	文化的景観	内湖（西の湖、北沢内湖）	未指定
14	その他人文	旧内湖の干拓地（大中の湖、小中の湖、津田内湖、水荃内湖等）	未指定
15	有形文化財	沖島町共有文書	未指定
16	有形文化財	西福寺資料（蓮如六字名号等）	未指定
17	有形文化財	大島、奥津島神社文書*	国指定文化財
18	有形文化財	白部若宮神社文書	未指定

その他…上記遺跡・古墳出土品、埋蔵文化財包蔵地（農耕集落跡、古墳・古墳群、古代寺院跡、渡来人関連遺跡、条里遺構等）

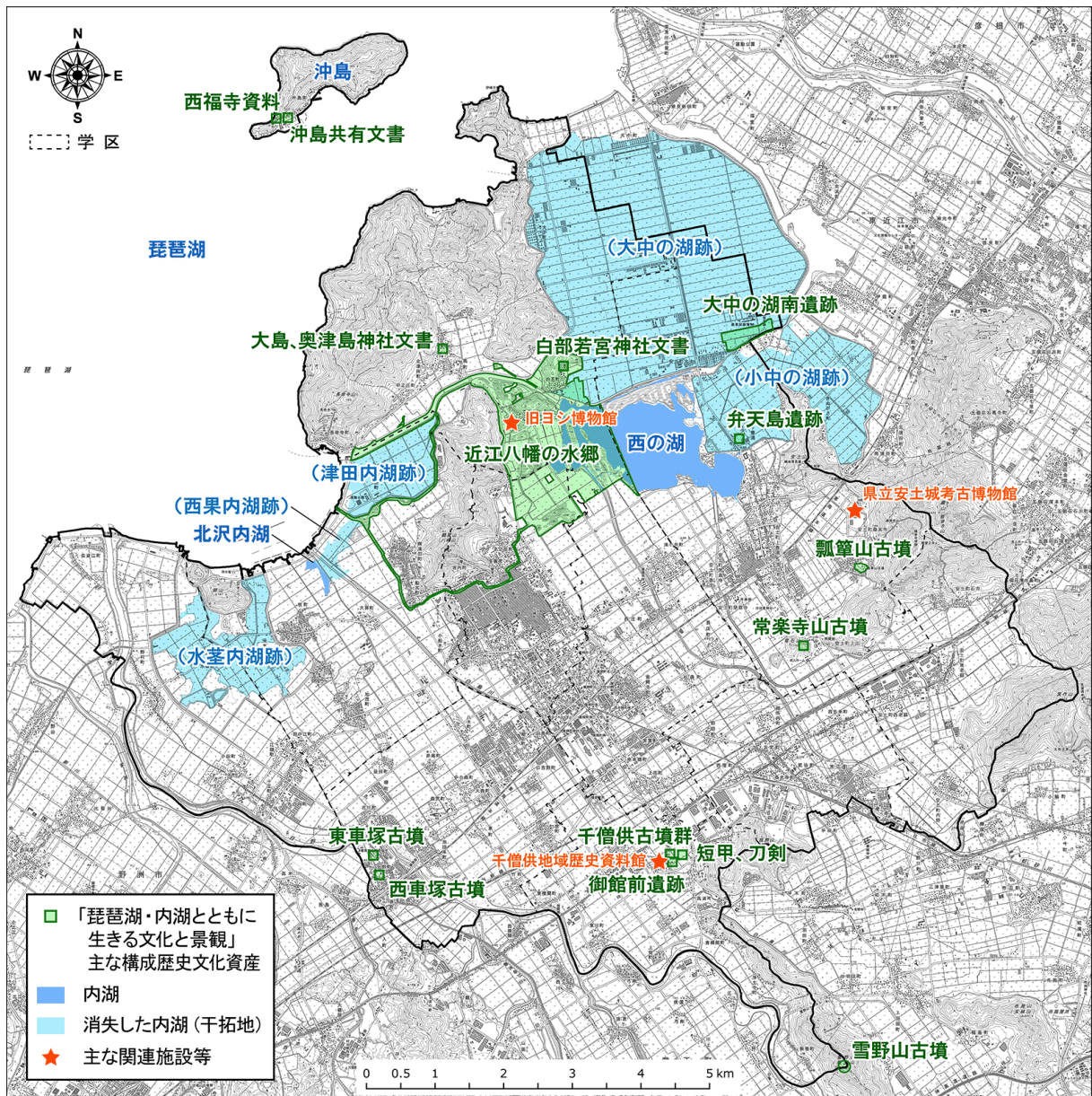
及び出土品、集落・漁村の生活・生業関連の資産、干拓に関する資産（古写真、公文書、干拓記念碑）等

※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産

3) 保存・活用の核となる関連施設等

県立安土城考古博物館（安土）、千僧供地域歴史資料館（馬淵）、旧ヨシ博物館（島）など

「琵琶湖・内湖とともに生きる文化と景観」主な構成歴史文化資産等の分布



※市外に所在、または市内外の美術館等に寄託している資産について元の所在地情報に基づき場所を示している



大中の湖南遺跡



瓢箪山古墳



近江八幡の水郷



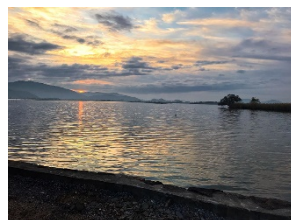
大中の湖干拓地



千僧供古墳群
(住蓮坊古墳)



弁天島遺跡
(福島弁天)



西の湖



沖島